

# デジタル広告事業に参入

## 一部上場会社と提携、子会社設立

### 上越印刷工業



関社長

上越印刷工業（前橋市大渡町、関智宏社長）は1日、デジタル広告事業などを手掛ける東証一部上場のソウルドアウト（東京都千代田区、荒波修社長）と戦略的業務提携を結んだ。これに基づき同日、インターネット広告やデジタルマーケティングに特化した100%子会社、JOETSUデジタルコミュニケーションズ（JDC・高崎市栄町3-23、関智宏社長）を

27-388-1360）を設立した。県内の中小企業、ベンチャーをターゲットに、リスティング広告（検索連動型広告）やSNS広告などを提案。「群馬に、デジタル・インベーションを。」のキャッチフレーズの下、需要を取り込んでいく。

上越印刷工業では、これまでの商業印刷物の製造から事業基盤の変革に取り組んでいる。その中でインターネット広告領域を今後のターゲット市場として設定。18年12月にはデザイン会社、マルキンアド（富岡市下黒石）と資本業務提携を結んだ。一方、インターネット



上越印刷工業の本社

広告領域に対応できる経営資源が不足していたため、外部企業との連携を模索。今年7月に地方

の展開を検討していたソウルドアウトから打診があり、業務提携締結と新会社設立を決めた。

群馬県内のインターネット広告市場は全国的に見ても非常に小さいのが現状。これについて関社長は「専門会社が群馬にないため潜在的な需要の掘り起こしができていない。ブルーオーシャン市場」でのリーディングカンパニーを目指したい」という。

1日に設立したJDCは資本金1000万円。役員構成は関社長と、ソウルドアウト執行役員の浅見剛取締役。当初の社員は上越印刷工業とソウルドアウトから1人ずつ出向する形の2人体制。今後、ソウルドアウトで研修を受けた上越印刷工

業の社員を出向させ、増員する方針。

顧客は県内の中小、ベンチャーと、上越印刷工業の既存クライアント。サービス内容は、ヤフー、グーグルなどのリスティング広告、ターゲティング広告、動画広告、SNS広告、SEO（検索エンジン最適化）、アマゾン広告コンサルティング、ブランディングなど。広告単価は5万円前後からを想定している。

顧客獲得に向けた取り組みの一環として、JDC設立記念の無料セミナーを開く。会場は29日がホテルメトロポリタン高崎、31日が前橋テルサ、11月12日が太田市産業支援センター。関社長とソウルドアウトの荻原猛会長、浅見取締役による講

演を予定している。関社長は「県内企業が抱えるマーケティング課題を、デジタルマーケティングを駆使したコミュニケーション施策で解決することで、企業のさらなる売上拡大、成長・発展を支援していく」と話している。（湯浅順一）